

ヨシの生育状況調査が実施されている平成 23 年度及び今年度調査の結果の比較を、表 3.4-4及び図 3.4-4に示す。

既存ヨシ群落は、平成 23 年度の調査結果と比較すると平均基本数は 106%、平均高さは 107%、平均太さ(G.L.+1.2m)は 94%の生育状況であったことから、ほとんど変わらない状況であると考えられる。

ヨシ移植地は、平成 23 年度の調査結果と比較すると平均基本数は 70%、平均高さは 63%、平均太さ(G.L.+1.2m)は 47%の生育状況であった。

ヨシ移植地は移植後 1 年目であり、今後、順調に生育が進めば、同等の生育状況を示すものと思われ、経年的なモニタリングにより監視することが望ましい。

表 3.4-4 ヨシの生育状況の経年変化

計測項目		調査結果				参考値	
		ヨシ移植地		既存ヨシ群落		H23	文献 ^{注1}
基本数(本/m ²)		90	平均 74.7	108	平均 112.3	平均 106	31.1±19.6
		72		115			
		62		114			
高さ(cm)		122.8	平均 130.9	217.3	平均 220.6	平均 207	200~225
		133.7		222.1			
		136.1		222.4			
太さ (mm)	G.L.+0.1m	4.15	平均 4.37	5.54	平均 5.46	-	6.5~7.0 ^{注2}
		4.35		5.75			
		4.60		5.10			
	G.L.+1.2m	2.22	平均 2.52	5.00	平均 5.10	平均 5.4	
		2.55		5.40			
		2.75		4.90			
	G.L.+2.0m	-	-	3.30	平均 3.40	-	
		-		3.39			
		-		3.50			

注1)「ヨシ群落現存量等把握調査報告書(ヨシ群落調査編)」(1992 滋賀県生活環境部環境室)

2)文献における太さの情報は、地上からの高さの測定位置が不明である。

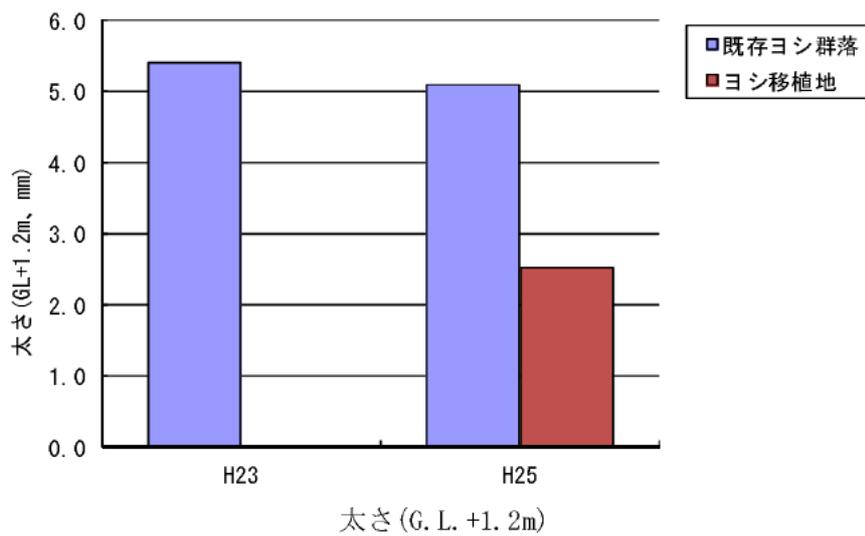
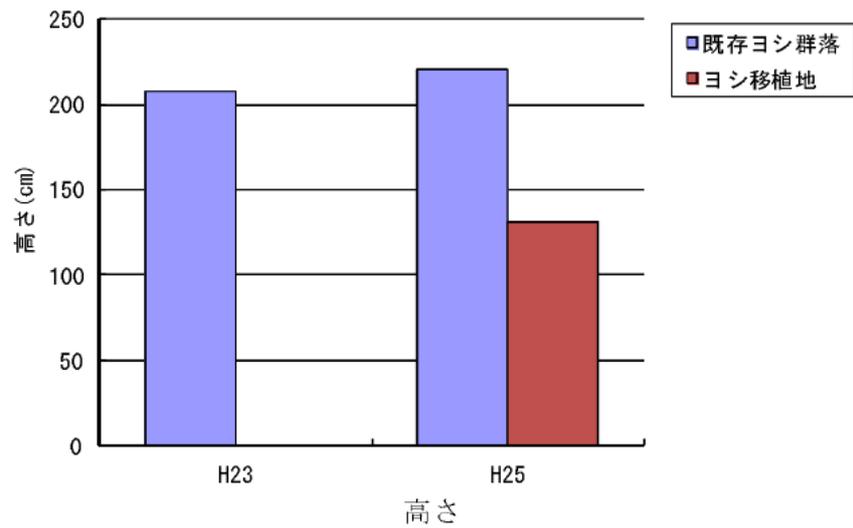
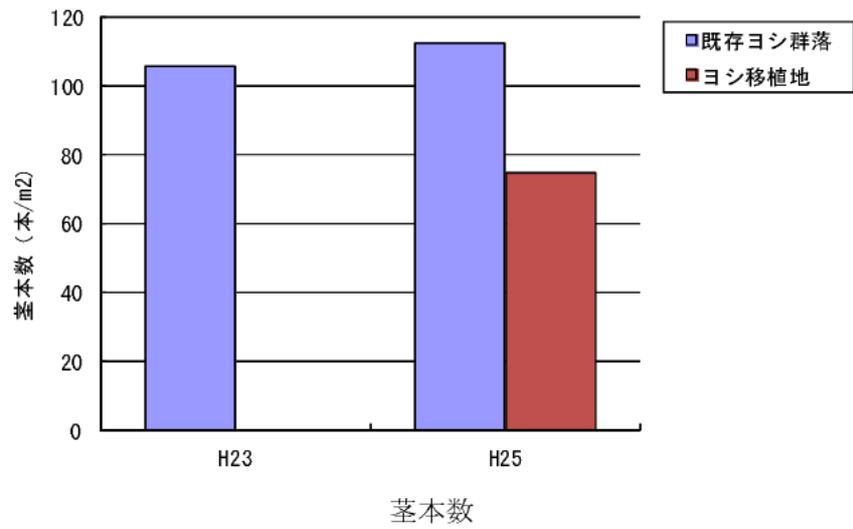


図 3.4-4 ヨシの生育状況の経年変化

(2) ヨシ原の健全性

撮影した空中写真を、写真 3.4-2 に示す。また、この空中写真を基に作成した現存植生図を図 3.4-5 に、各群落の面積を表 3.4-5 に、平成 23 年度植生図との対比を図 3.4-6 に示す。

作成した植生図のうち、ヨシ群落は約 22% であり、この地区で優占群落となっている。また、平成 24 年度に移植を行った箇所(ヨシ・サデ群落)及びヨシ群落と同様の抽水植物群落であるガマ群落を併せると 29.8% となり、良好な湿性地生態系の基盤を提供しているものと考えられる。

一方、平成 23 年度の植生図と比較して、乾燥地を好むセイタカアワダチソウ群落が大きく拡大している。これは、平成 24 年度にヨシ群落の拡大を期待して、ジャヤナギの除伐を行った箇所である。平成 25 年度夏季は高温、少雨であったため、より乾燥した環境を好むセイタカアワダチソウがいち早く侵入し、繁茂したものと推定される。セイタカアワダチソウは、外来生物法による要注意外来生物に指定されており、在来種を駆逐することが懸念されている。

また、ジャヤナギ群落は、平成 24 年度にこの地区の中央部に分布する群落について除伐を行っているが、周辺部に残る群落の面積はヨシ群落と同等であり、この地区で 2 番目に大きい。ジャヤナギは、成長するとヨシを被圧し、衰退させる可能性がある。

これらのことから、ヨシ原の健全性を確認するに当たり、ヨシ群落、ガマ群落等の抽水植物群落及び競合するセイタカアワダチソウ、ジャヤナギ群落面積に着目してモニタリングする必要がある。

表 3.4-5 群落の面積

植生区分	面積(m ²)	面積比(%)
ヨシ群落	1,438	20.6
ガマ群落	157	2.2
ヨシ・ガマ群落	494	7.0
サデクサ群落	360	5.1
沈水植物群落	69	1.0
オギ群落	329	4.7
ノイバラ群落	66	0.9
クズ群落	161	2.3
ジャヤナギ群落	1,376	19.6
イネ科群落	323	4.6
先駆性低木群落	322	4.6
樹木園	769	11.0
セイタカアワダチソウ群落	1,147	16.4
計	7,011	100.0



写真 3.4-2 空中写真

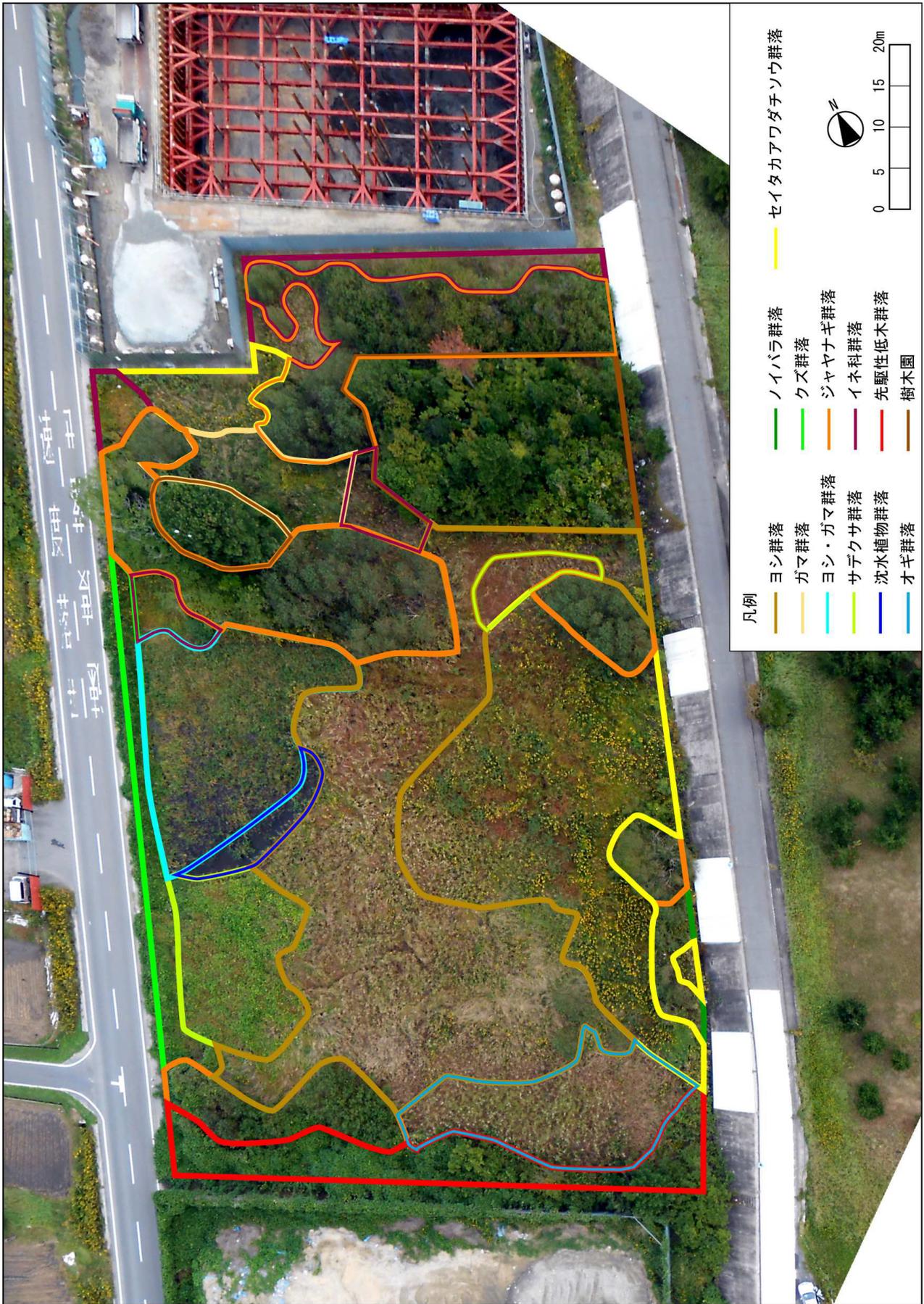


図 3.4-5 現存植生図

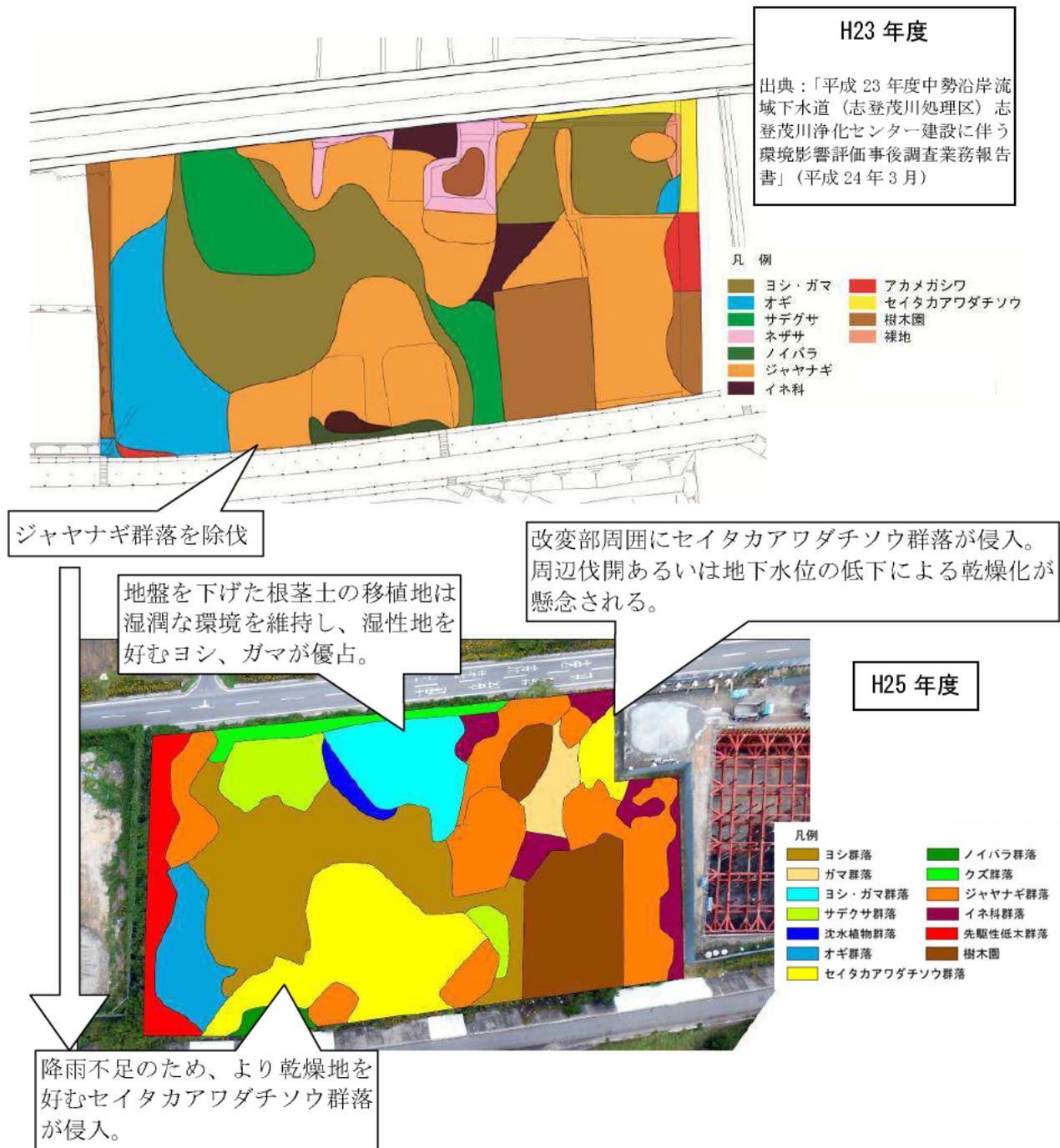


図 3.4-6 植生の比較

4. まとめと今後の課題

4.1 水質・騒音に関する調査

4.1.1 水質調査

豪雨時に実施した3回の水質調査では、基準値を超える値はなかった。

今後も当面の間は工事中に発生する排水は存在しないが、豪雨時に水質調査を実施し、周辺地域への排水による影響を低減するよう努めることとする。

4.1.2 騒音調査

既往検討書において、工事中の重機類からの騒音は表4.1-1に示すとおり予測されている。予測時の条件（予測時期や工重機類の種類や配置）と現在の工事状況が異なるため単純な比較はできないが、敷地境界において測定された騒音レベルの90%レンジの上端値（ L_9 ）の最大は敷地境界において59dBであり、予測を下回る結果となった。

今後も工事中における騒音調査を実施し、周辺住民への騒音の影響を低減するよう努めることとする。

表4.1-1 工事中の重機類からの騒音予測結果

単位：dB

敷地境界（規制基準85dB）			周辺集落の代表地点				
北側	北西側	南東側	新町 集会所	美松園 集会所	影重 公民館	新町 集落	影重 集落
63	77	70	53	55	56	58	55

注1：「中勢沿岸流域下水道（志登茂川処理区）の浄化センター事業内容一部変更に関する環境影響評価検討書」（三重県、平成22年11月）より。

注2：本体工事において、各重機の騒音パワーレベルの合計値が最大となる月について予測した。

4.2 動物・植物に関する調査

4.2.1 特筆すべき植物

(1) カワラナデシコ、ビロードテンツキ、ハマボウフウ、サデクサ、ハマニガナ、ミズワラビ

特筆すべき植物の調査対象種はカワラナデシコ、ビロードテンツキ、ハマボウフウ、サデクサ、ハマニガナ、ミズワラビの6種である。平成25年度調査ではこれら全種の生育を確認した。これらの種の経年的な確認状況を表4.2-1に示した。

確認した種は、分布範囲についてはカワラナデシコ、ビロードテンツキ、ハマニガナが縮小した。これらの種の分布範囲の縮小要因は、台風による砂の移動や酷暑・少雨による日焼け等による群落の衰退が挙げられる。ハマボウフウの分布範囲は平成24年度と同程度であった。サデクサ、ミズワラビの分布範囲は、平成24年度と比較し拡大していた。特に、ミズワラビは平成25年2月に行ったヨシの移植に伴う土壌の掘返しにより群落が出現し分布範囲が増加したと考えられる。

工事の進行による周辺環境の変化にともない、特筆すべき植物の生育状況に影響が生じる可能性があるため、今後も事後調査を継続し、生育状況の把握に努める。

(2) 調査対象以外の特筆すべき種の確認状況

調査対象種以外の特筆すべき植物はコムラサキ、ノカンゾウ、ウスゲチョウジタデの3種である。

コムラサキは3地点で確認され延べ14個体が確認された。そのうち1地点は計画地内であり、8個体の生育が確認された。いずれも自生しているものではなく、植栽の可能性が高いと考えられる。

ノカンゾウは平成22年度にチガヤ、セイタカアワダチソウ、イシミカワ、ヤブガラシ等に覆われた車道とヨシ原の境界に9株が確認された。平成23年度には、100株以上が確認されたが、平成24年度と今年度は生育が確認されなかった。本種は、コムラサキ同様に植栽残存の可能性が高いと考えられ、何らかの人為圧によって消失した可能性が考えられた。

ウスゲチョウジタデは新たに2地点で生育が確認された。確認地点は土壌の掘返し、あるいは耕作地の掘削が行われた場所であることから、土壌中の種子により群落が出現したと考えられる。

なお、コムラサキ、ウスゲチョウジタデについては、今後、他の調査対象種の調査時に併せて生育確認を行っていくこととする。ノカンゾウについては、人為圧による消失の可能性があり、今後は調査対象外とする。

表4.2-1 特筆すべき植物の経年的な確認状況 (1/2)

種名	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	確認状況
カワラナデシコ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	計画地内外の砂浜で確認されているが、生育株数の大部分は地点2で占められる。地点2以外では5株未満となっている。地点2では平成17年度年に1,000株未満となったが、平成18年度から増加の兆しがみられ、平成23年度には約4,000株と過去最大となった。最小であった平成17年度及び最大となった平成23年度を除くと1,000~3,000株の間で推移していたが、平成25年度は平成17年度よりも少ない約500株であった。
ヒロードテンツキ	×	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	計画地内外の砂浜で確認されており、生育範囲は平成24年度に比べ若干減少した。全体の株数は平成17年度までは15万株前後で推移し、その後増加傾向を示し、平成24年度は過去最高の47万株となった。平成25年度は平成17年度以前と同程度の約13万株であった。
ハマボウフウ	×	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	計画地内外の砂浜で確認されており、生育範囲に大きな変化は見られない。全体の株数は平成19年度まで増加傾向にあったが、平成20年度にはやや減少した。平成21年度は減少以前の状況まで回復したが翌年より再び減少に転じ、平成23年度は約5万株となった。平成25年度は平成24年度と同程度の約7万株であった。
サデクサ	×	×	×	×	×	×	×	×	●	●	●	●	●	●	●	●	●	平成17年度に計画地内の堤内地の休耕田において180㎡の生育が確認された。平成20年度まで増加傾向にあり、2,770㎡まで増加したが、平成21年度~22年度には縮小し、1,723㎡となった。平成23年度は再度拡大したが、平成24年度は縮小した。今年度は、やや増加し約2,700㎡であった。平成20年度以降、経年的に増加傾向にある。
ミズワラビ	×	×	×	●	●	●	●	●	●	×	●	●	×	×	●	×	●	計画地外の堤内地の水田で確認されていたが、水田耕作地の縮小に伴って減少し、平成18年度には確認されなかった。その後、平成19年度、20年度、23年度に確認されたが、平成21年度、22年度に確認されたが、平成24年度は確認されないなど不安定であった。今年度は調査範囲内で新たに2地点が確認された。

※：●；生育確認、 ×；未確認、 -；調査未実施

表 4. 2-1 特筆すべき植物の経年的な確認状況 (2/2)

種名	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	確認状況
ハマニガナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●	●	●	●	●	●	平成19年度に新たに調査対象種として追加された。平成22年度に生育面積が減少したが、平成23年度には回復した。海浜の砂の動きにより面積や確認葉数などが左右されると思われる、平成23年度では生育面積が回復したものの花序数・葉数は減少していた。平成24年度は生育面積、花序数・葉数ともに増加していたが、平成25年度は生育面積、花序数・葉数ともに過去最小であった。
コムラサキ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●	●	●	平成22年度に新たに調査対象種以外の特筆すべき種として追加された。平成22年度から平成24年度にかけて個体数が増加していたが、平成25年度には個体数の変化はみられなかった。植栽残存と考えられるため、正式な調査対象種とはしない方針である。
ノカンゾウ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●	×	×	平成22年度に新たに調査対象種以外の特筆すべき種として追加された。平成22年度から平成23年度にかけて大幅に個体数が増加したが、平成24年度、25年度は確認されなかった。植栽残存であり、人為圧による消失と考えられるため、平成26年度以降は調査対象外とする方針である。
ウスゲチヨウジタデ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	平成25年度に新たに調査対象種以外の特筆すべき種として追加された。確認地点は土壌の掘返しや耕作地の掘削が行われた場所であることから、土壌中の種子により群落が出現したと考えられる。

※：●；生育確認、 ×；未確認、 -；調査未実施

4.2.2 特筆すべき動物

(1) 鳥類

本調査の調査対象種は、コチドリ、シロチドリ、コアジサシ、オオヨシキリ、ミユビシギ、キアシシギ、イソシギ、キョウジョシギ、トウネン、ハマシギ、チュウシャクシギ、アオアシシギの計12種である。平成25年度調査では、これらのうち、シロチドリ、コアジサシ、オオヨシキリ、ミユビシギ、キアシシギ、イソシギ、キョウジョシギ、トウネン、ハマシギ、チュウシャクシギ、アオアシシギの11種を確認した。本調査および既往調査において確認された特筆すべき動物（鳥類）の一覧を表4.2-2に示す。

繁殖に関する行動は、シロチドリ、オオヨシキリで確認された。シロチドリの繁殖に関する行動として、計画地北側の草地在混じる砂浜で擬似抱卵が確認された。また、オオヨシキリの繁殖に関する行動として、計画地内のヨシ原保全区域周辺及び河芸漁港西側のヨシ原でさえずりが確認された。このうち、河芸漁港西側のヨシ原では営巣跡を2箇所確認したが、計画地内のヨシ原では営巣跡は確認されなかった。

事業計画地およびその周辺ではこれまでに10目19科45種の特筆すべき鳥類が確認されている。このうち、本調査の調査対象種である12種について、これまでの調査における経年的な確認状況を整理した。

なお、今後の工事の進行による周辺環境の変化にともない、特筆すべき鳥類の生息状況に影響が生じる可能性があるため、事後調査を継続し、生息状況の把握に努める。

表 4.2-2 特筆すべき動物（鳥類）の経年的な確認状況(2/2)

No.	目名	科名	種名	選定基準																							
				天然記念物	種の保存法	環境省 RLB	環境省 RDB	重県 RDB	近畿版 RDB	H5~H6	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
32	チドリ目	ツバメチドリ科	ツバメチドリ		VU	VU			R2(通過)																		
33		カモメ科	ウミネコ						R4(繁殖)																		
34			オオアジサシ		VU				R2(通過)																		
35			コアジサシ	II	VU	VU	EN		R2(繁殖)																		
36	ブツブツ目	カワセミ科	カワセミ						R3(繁殖)																		
37	キツツキ目	キツツキ科	アリスイ						R3(越冬)																		
38	スズメ目	セキレイ科	ビンズイ						R4(繁殖)																		
39		ツグミ科	ノビタキ						R3(繁殖)																		
40		ウグイス科	オオヨシキリ				NT		R3(繁殖)																		
41		ヒタキ科	エゾビタキ						R3(通過)																		
42		ホオジロ科	コサメビタキ						R3(繁殖)																		
43			ホオアカ						R3(繁殖)																		
44			アオジ						R3(繁殖)																		
45		ムクドリ科	コムクドリ						R3(通過)																		
				合計10目19科45種	0種	3種	15種	9種	43種	15種	5種	3種	3種	4種	2種	4種	6種	19種	7種	12種	9種	12種	14種	15種	12種	24種	25種

注1：確認状況の凡例は以下のとおりである。◎：事業計画地内外で確認、○：事業計画地内のみ確認、△：事業計画地外でのみ確認、■：確認位置不明、-：確認されなかった。

2：表中の黄色網かけの種は平成25年度調査対象種。

3：特筆すべき種の選定基準は下記のとおりである。

天然記念物：「文化財保護法」(1950年5月公布・同8月施行)により地域を定めずに天然記念物に選定されている種及び亜種を示す。

種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動物種の保存に関する法律」(1992年6月公布・1993年4月施行)において希少野生動物種に指定されている種及び亜種を示す。

I：国内希少野生動物種 II：国際希少野生動物種

環境省RL：「環境省第4次レッドリスト(2012)(第4次レッドリストの公表について 環境省報道発表資料 平成24年8月28日)」に記載されている種および亜種を示す。

VU：絶滅危惧Ⅱ類。 NT：準絶滅危惧。 DD：情報不足

三重県RDB：「三重県版レッドデータブック2005動物」(三重県環境森林部自然環境室,2006)に記載されている種及び亜種。()内は指定対象個体群を示す。

EN：絶滅危惧ⅠB類。 IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種。

VU：絶滅危惧種。絶滅の危機が増大している種。

NT：準絶滅危惧種(Near Threatened)。存続基盤が脆弱な種。

近畿版RDB：「近畿地区・鳥類レッドデータブック-絶滅危惧種判定システムの開発(京都大学学術出版会、山岸哲監修、江崎保男・和田岳編著,2002年)」に記載されている種。

()内は指定対象個体群を示す。

R2：ランク2。絶滅危惧。絶滅する可能性が大きい。

R3：ランク3。準絶滅危惧。絶滅する可能性がある。

R4：ランク4。要注目種。何らかの攪乱によって一気に絶滅する可能性がある、あるいは全国・世界レベルで絶滅の危険性があるとみなされているもの。

1) コチドリ

コチドリの平成 15 年度から平成 25 年度の調査における確認位置を図 4.2-1 に示す。

平成 25 年度の調査においてコチドリは確認されなかった。既往調査では、計画地内の工事発生土置き場や裸地において、平成 18 年度には巣を 1 巣（4 卵）と抱卵を行う 1 羽が確認され、平成 20 年度には 2 巣（それぞれ 4 卵）と巣立ち直後のヒナ 1 羽および親鳥の擬傷行動などが確認された。また、平成 21 年度には計画地内での繁殖行動は確認されず、工事区域外の裸地（駐車場）で幼鳥 2 羽を連れていくつがい確認されている。

本種は工事によって生じた人工的な裸地環境を産卵場所として利用する可能性が考えられることから、今後もつがいの分布状況や繁殖状況に留意して調査を実施していくこととする。

2) シロチドリ

シロチドリの平成 15 年度から平成 25 年度の調査における確認位置を図 4.2-2 に示す。

既往調査では、シロチドリはすべての年度で生息が確認され、多くの繁殖が記録されており、白塚海岸の砂浜を繁殖・採餌環境として継続的に利用してきたことが推定される。平成 25 年度の調査においては、5 月に擬似抱卵が確認され、繁殖の可能性が示唆されたが、繁殖は確認されなかった。

シロチドリについては、既往報告書において、事業により生息環境に影響が及ぶおそれがあると考えられたため、表 4.2-3 に示した保全措置が考えられている。これらの保全措置によりシロチドリの生息環境への影響は回避・低減されることが考えられるが、保全措置の有効性を検証するため、今後の工事実施中および施設供用後も継続して調査を実施していくこととする。特に、工事によって生じた人工的な裸地環境を産卵場所として利用する可能性が考えられることから、つがいの分布状況や繁殖状況に留意して調査を実施していくこととする。

表4.2-3 シロチドリに対する保全措置

保全対象種	保全措置	その他の配慮事項
シロチドリ	本種については、工事車両・作業員の砂浜への進入・立ち入りによる繁殖への影響が考えられることから、工事車両・工事関係者の工事区域以外への進入・立ち入りを禁止する。 また、工事関係者以外による影響を抑制するため、本種の繁殖期に海岸管理者と協議のうえ、看板・柵等を設置することにより、繁殖地への不用意な人の立ち入り、不必要な車両の進入防止に努める。	計画地南東部にあるグラウンド（面積約 0.7ha）について、表土を除去した上で、計画地内の砂を入替え、砂浜の復元を図る。

※ 「中勢沿岸流域下水道（志登茂川処理区）の浄化センター事業内容一部変更に関する環境影響評価検討書」（三重県、平成 16 年 9 月）より。

3) コアジサシ

コアジサシの平成 15 年度から平成 25 年度の調査における確認位置を図 4.2-3 に示す。

平成 25 年度の調査では、平成 25 年 5 月 10 日に海上を飛翔する 4 羽、6 月 25 日に海上で採餌する 5 羽、海上を飛翔する 4 羽、9 月 17 日に海上を飛翔する 3 羽が確認されたが、繁殖行動は確認されなかった。

既往調査においてもほとんどの調査で生息が確認されているが、今回の調査も含め、これまで営巣は確認されていない。また、確認される時期が渡りの時期であるため、白塚海岸は渡りの途中での採餌場所として利用されているものと考えられる。

4) ミユビシギ

ミユビシギの平成 15 年度から平成 25 年度の調査における確認位置を図 4.2-4 に示す。

平成 25 年度の調査では、平成 25 年 4 月 25 日に海上で飛翔・採餌する 2 羽、5 月 10 日に砂浜で採餌する延べ 40 羽、8 月 12 日に海岸の水際で採餌する 6 羽、9 月 17 日に砂浜で採餌する 7 羽、平成 26 年 1 月 10 日に砂浜で採餌する 2 羽が確認されたが、繁殖行動は確認されなかった。

既往調査では、平成 15 年度及び 18～24 年度にいずれも事業計画地外で確認されている。採餌行動が確認されていることから、調査地周辺の海岸を渡りの中継地として採餌・休息場所に利用しているものと考えられる。

5) キアシシギ

キアシシギの平成 15 年度から平成 25 年度の調査における確認位置を図 4.2-5 に示す。

平成 25 年度の調査では、平成 25 年 5 月 10 日に人工物上で休息する 1 羽、8 月 12 日に海岸の水際で採餌する 2 羽が確認されたが、繁殖行動は確認されなかった。

既往調査では、平成 15～19 年度、22 年度、24 年度に事業計画地外で確認されているが、個体数は少ない。当地域で確認される個体は繁殖地から越冬地に向かう渡り途中のものと考えられ、調査地周辺の海岸を渡りの中継地として採餌・休息に利用しているものと考えられる。

6) イソシギ

イソシギの平成 15 年度から平成 25 年度の調査における確認位置を図 4.2-6 に示す。

平成 25 年度の調査では、平成 25 年 5 月 10 日に防波堤上で休息する 1 羽、7 月 25 日にテトラポッド上で休息する 1 羽、平成 26 年 1 月 10 日に海上を飛翔する 1

羽及び砂浜で採餌する1羽が確認されたが、繁殖行動は確認されなかった。

既往調査では、平成15年度、17年度、19年度～23年度にそれぞれ事業計画地内外で確認されているが、確認個体数は少ない。繁殖行動は確認されておらず、調査地周辺の海岸を採餌・休息に利用しているものと考えられる。

7) キョウジョシギ

キョウジョシギの平成15年度から平成25年度の調査における確認位置を図4.2-7に示す。

平成25年度の調査では平成25年5月10日に砂浜で採餌する1羽が確認されたが、繁殖行動は確認されなかった。

既往調査では、平成15年度、17年度、20～24年度にそれぞれ事業計画地外で確認されているが、確認個体数は少ない。当地域で確認される個体は繁殖地から越冬地に向かう渡り途中のものと考えられ、調査地周辺の海岸を渡りの中継地として採餌・休息に利用しているものと考えられる。

8) トウネン

トウネンの平成15年度から平成25年度の調査における確認位置を図4.2-8に示す。

平成25年度の調査では平成25年9月17日に砂浜で採餌する1羽が確認されたが、繁殖行動は確認されなかった。

既往調査では、平成15年度、17年度、21年度に事業計画地外で確認されているが、個体数が少ない。

本種は繁殖地と越冬地を行き来する際に確認される旅鳥であり、既往調査で渡り途中と考えられる個体が確認されている。渡りの時期は年によって前後したり、個体数が増減することがあるため、年により確認されることがあると考えられる。

9) ハマシギ

ハマシギの平成15年度から平成25年度の調査における確認位置を図4.2-9に示す。

平成25年度の調査では平成26年1月10日に海上を飛翔する12羽が確認されたが、繁殖行動は確認されなかった。

既往調査では平成15年度と平成21年度～23年度にそれぞれ事業区域外の海岸部の砂浜で確認されている。

本種は旅鳥もしくは冬鳥であり、春と秋の渡りの時期および越冬期に確認される。渡りの時期は年によって前後したり、個体数が増減することがあるため、年により確認されることがあると考えられる。

10) チュウシャクシギ

チュウシャクシギの平成 15 年度から平成 25 年度の調査における確認位置を図 4.2-10に示す。

平成 25 年度の調査では、平成 25 年 4 月 25 日に草地で休息する 2 羽、5 月 10 日に砂浜で採餌する 1 羽が確認されたが、繁殖行動は確認されなかった。

既往調査では、平成 17 年度、21 年度、23 年度に事業計画地内外で確認されている。本種は繁殖地と越冬地を行き来する際に確認される旅鳥であり、当地域で確認される個体は繁殖地から越冬地に向かう渡り途中のものと考えられ、調査地周辺の海岸を渡りの中継地として採餌・休息に利用しているものと考えられる。

11) アオアシシギ

アオアシシギの平成 15 年度から平成 25 年度の調査における確認位置を図 4.2-11に示す。

平成 25 年度の調査では、平成 25 年 5 月 10 日に砂浜で休息する 8 羽が確認されたが、繁殖行動は確認されなかった。

既往調査では、平成 22 年度に事業計画地域外で海上を飛翔する 7 羽が確認されている。

本種は旅鳥であり、日本へは春と秋に確認される。計画地周辺の砂浜などを休息場所や採餌場所として利用しているものと推察される。

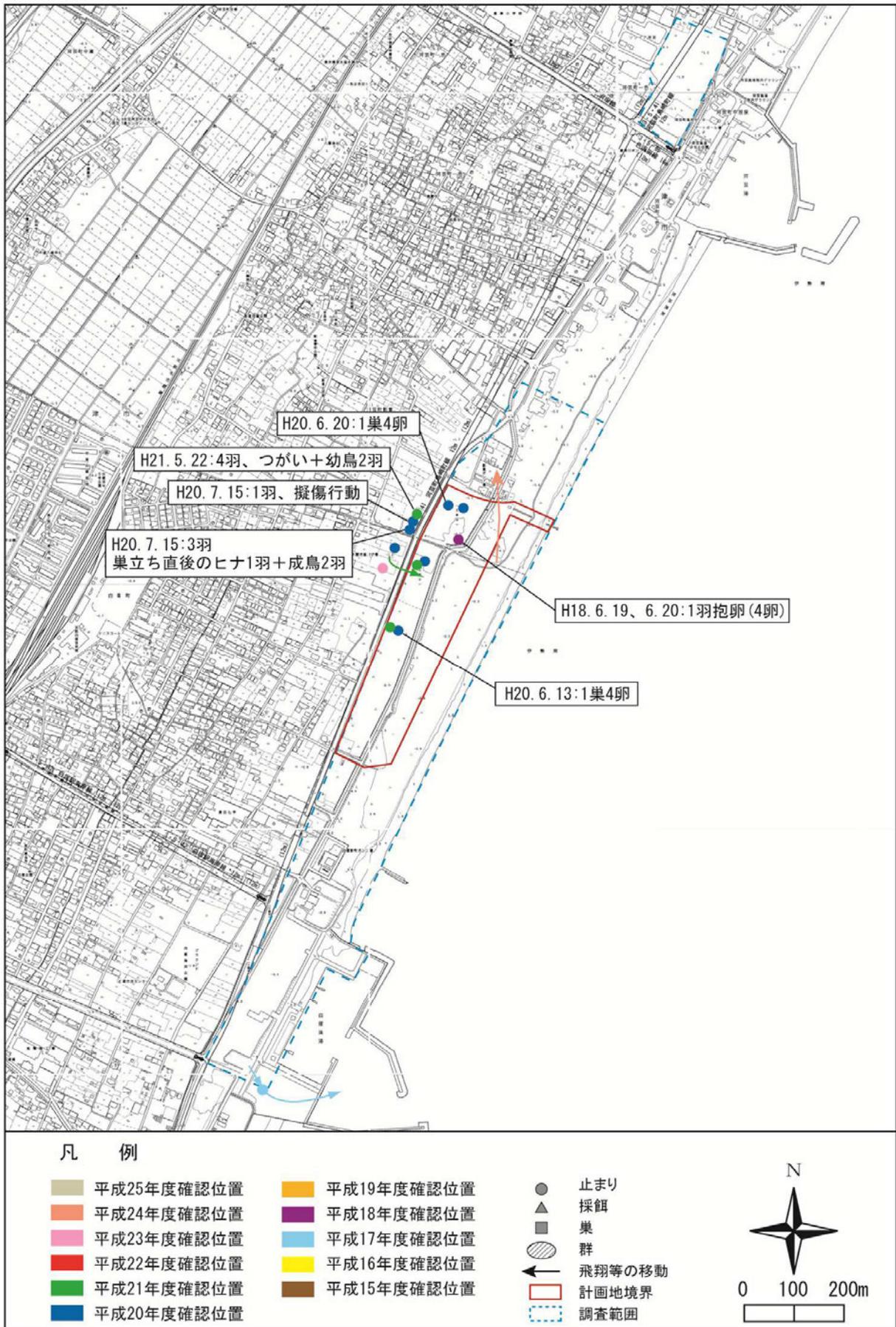


図4.2-1 コチドリの平成15～25年度調査での経年確認位置

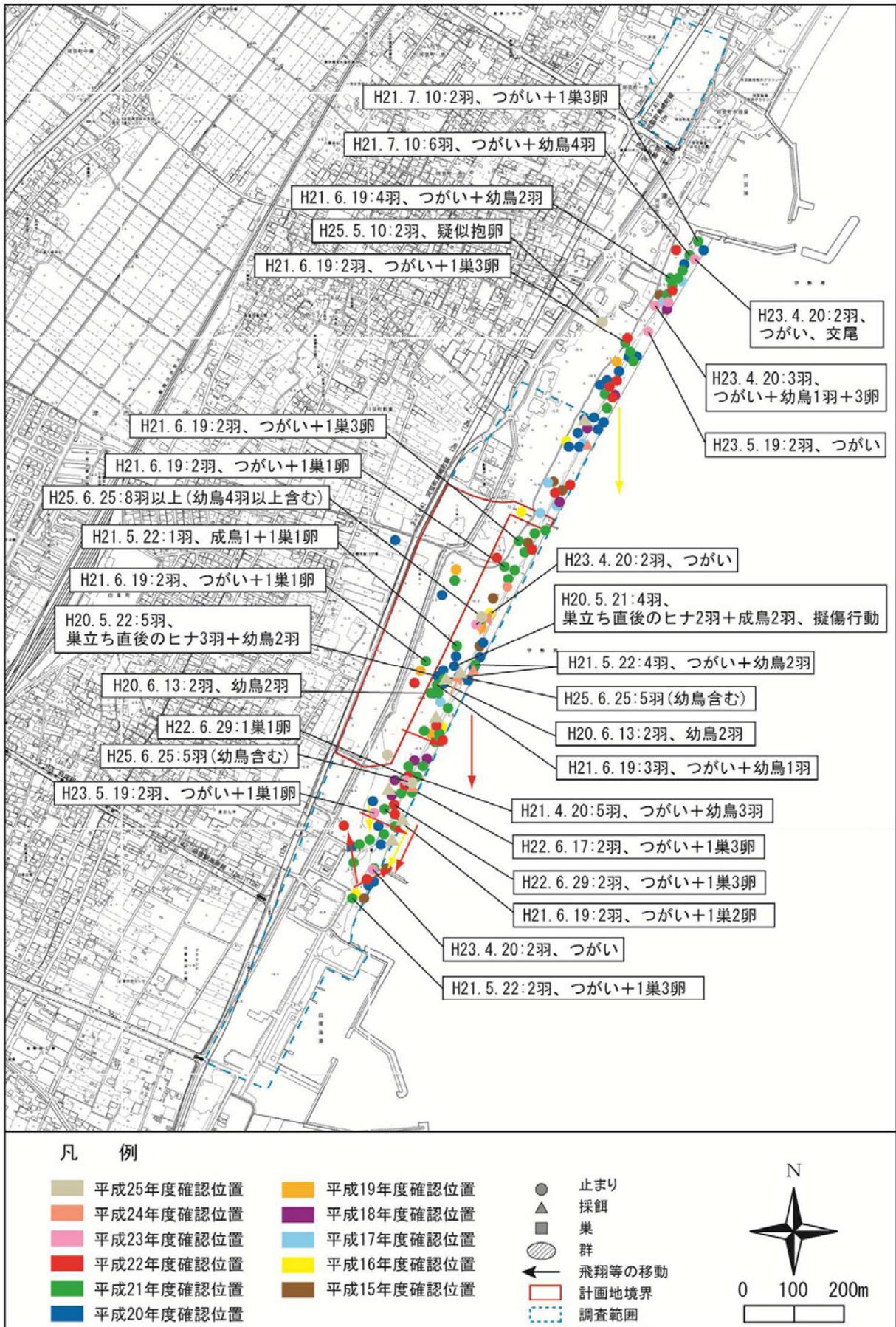


図4. 2-2 シロチドリの新15~25年度調査での経年確認位置

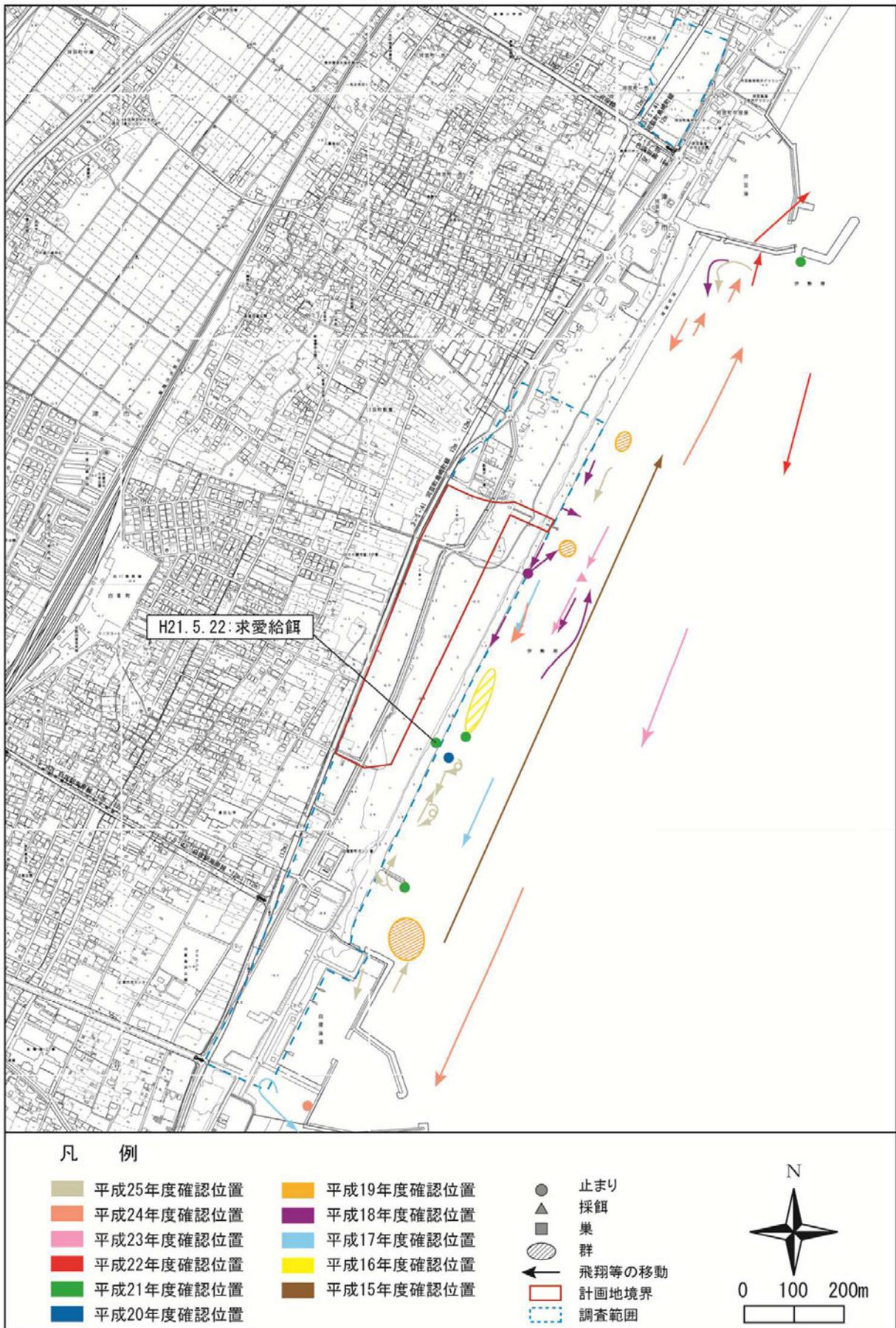


図4.2-3 コアジサシの平成15～25年度調査での経年確認位置

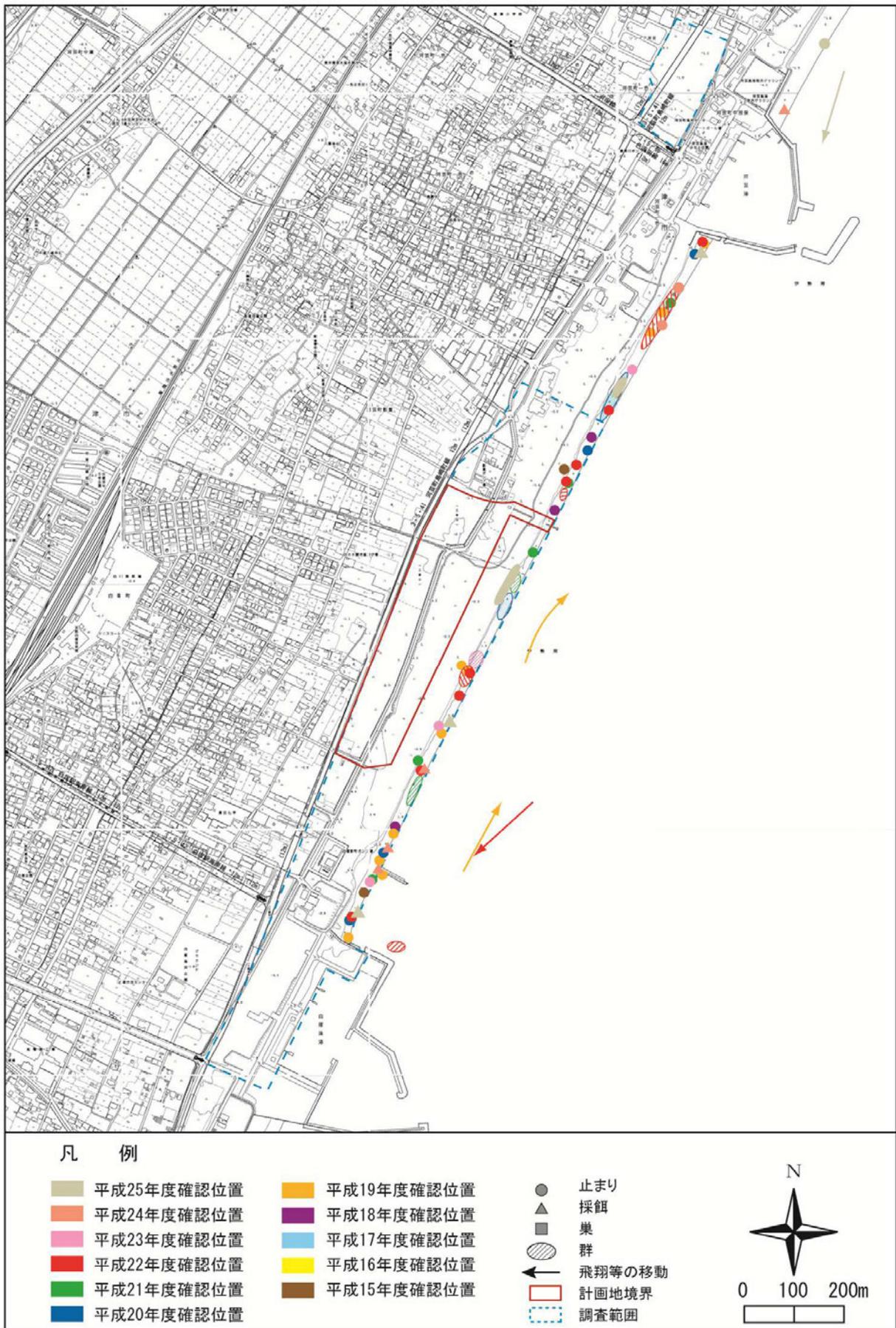


図4.2-4 ミュビシギの平成15～25年度調査での経年確認位置

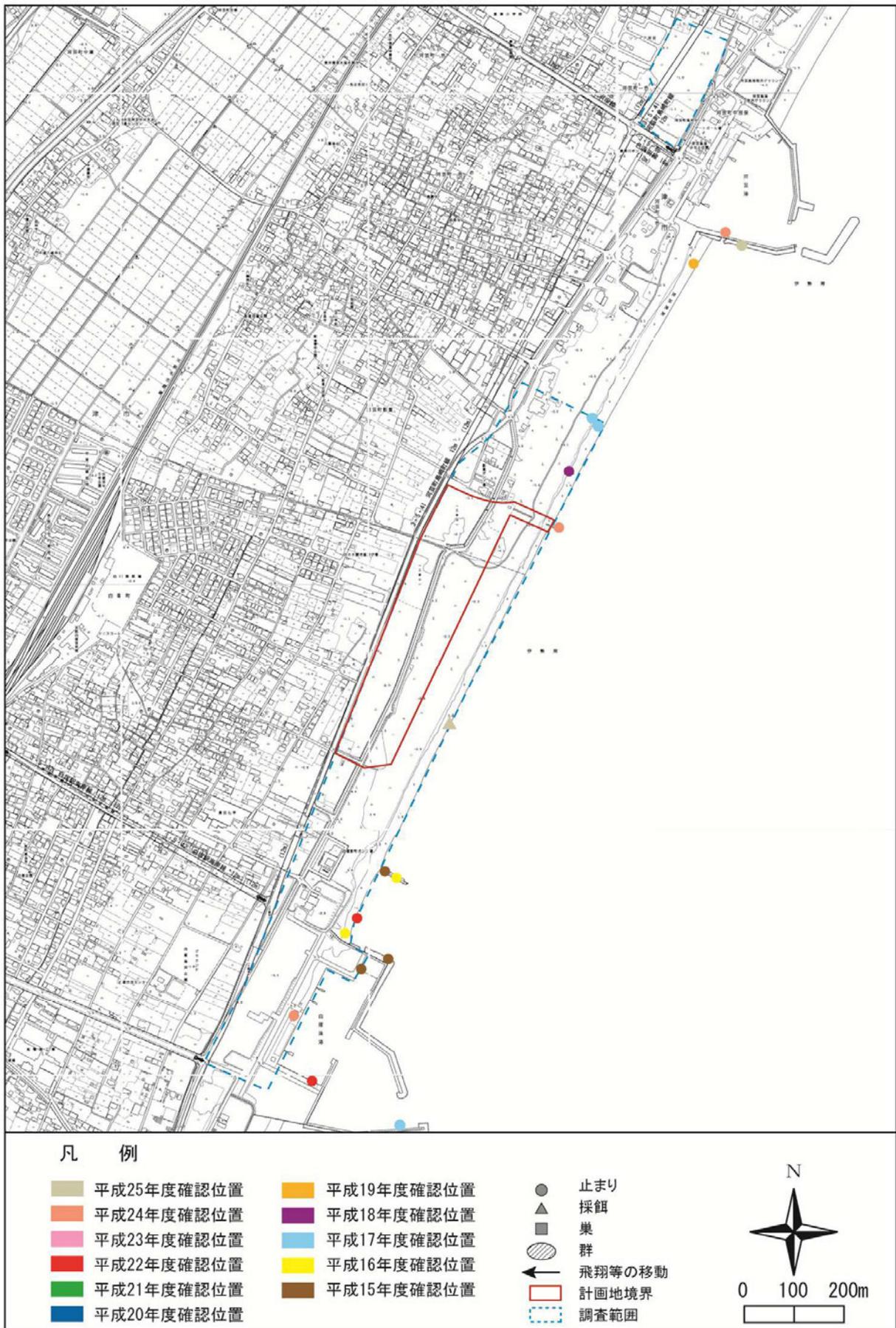


図4.2-5 キアシシギの平成15～25年度調査での経年確認位置

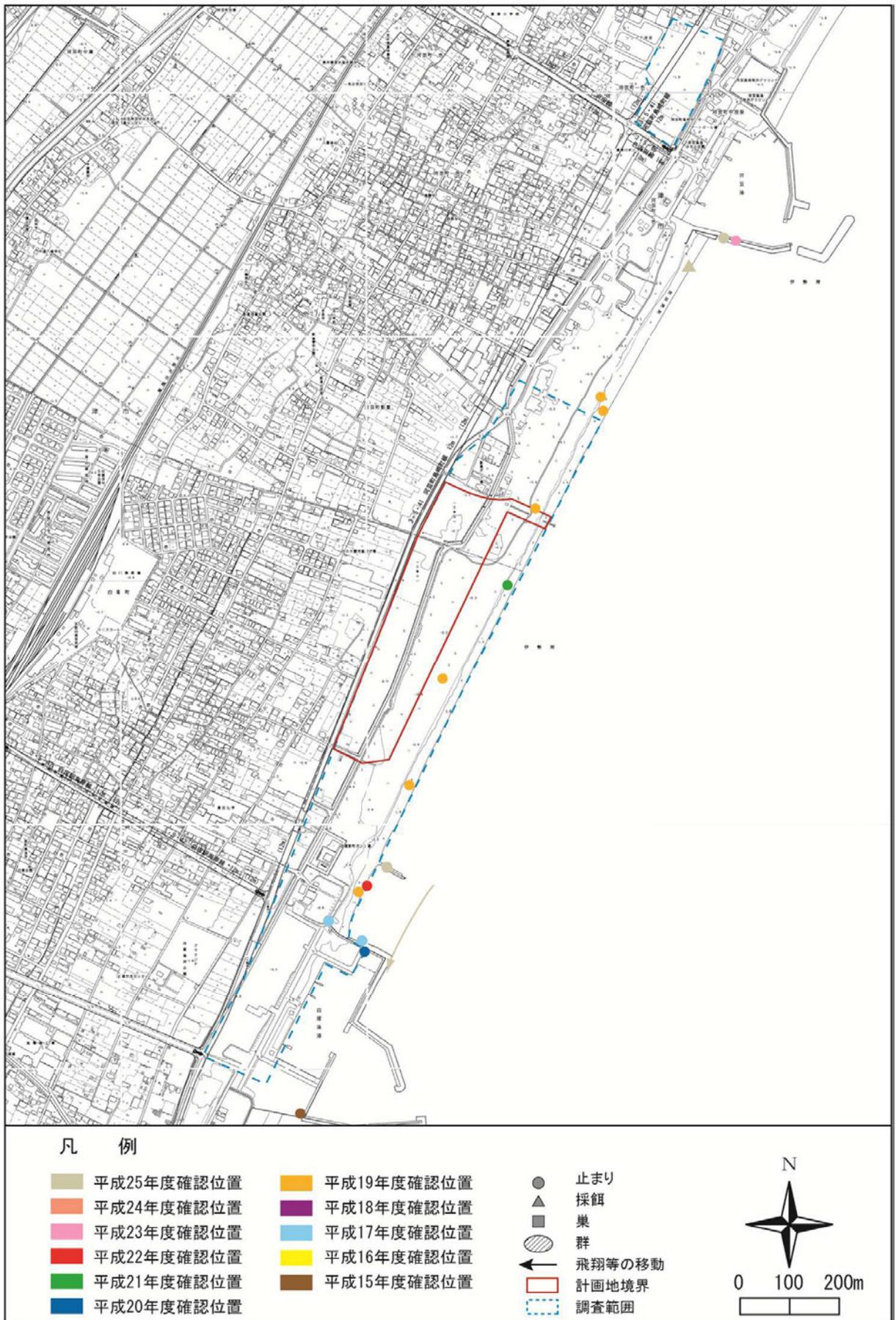


図4.2-6 イソシギの平成15～25年度調査での経年確認位置